



福島48便(視察研修1号)報告

(公開用)

1. 実施日

平成27年4月11日(土)

2. 目的

- (1) 東日本大震災と原発事故の『風化』をさせない。
- (2) 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』。
- (3) 自分達に出来ることを『考える』

3. 主催

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

4. 協力

富岡町

富岡町職員の方(ご案内)

5. 視察研修実施資料

福島48便(視察研修1号) <富岡町様視察研修>資料 v20150319 (別紙)

(富岡町の紹介、歴史、観光MAP、地震の概要、視察行程、研修、参考資料)

目次

1. はじめに	3
2. 視察場所	6
3. 視察行程・時間概略	6
4. 参加者	6
6. 視察研修記録	8
(補足)	34
1. 視察研修便参加者アンケート集計 「() 内は回収・回答数です。」	34
2. 会計	36

1. はじめに

富岡町長 宮本皓一 様

今回は、ご協力頂き、富岡町様の今と、当時の状況のことのほんの一部ではありますが、現地を見て知る、お話をお聞きする、そして体感することが出来ました。

取り壊されてしまった「富岡駅」、桜の咲き誇る「夜の森」、第二原発を臨む富岡海岸「観陽亭」、「文化センター学びの森」の災害対策本部、フレコンパックの壁・焼却場が稼働した「毛萱」、双葉警察署の北隣の公園に保全された「遺構となったパトカー」、参加者も、報道で知っていたことも、やはり自分の目で見たことは大きな衝撃でした。

当会が現地に赴く主旨も、そこにあります。自分が現地に行って、自分の目を見て、自分の耳で聞いて、自分で体感して、感じて・・・。

私達がすべきことであり、そして伝えること、大事なことと思っています。

過去、現在、未来については、是か非かはそれぞれにあるかと思います。私達に何が出来るものではありませんが、知り、伝える、最低必要なことと、と思っています。

今回は、その意味で、受け止め方は様々と思います、その中でも参加者に、衝撃・ショック・違和感、を感じとってもらったと思います。

神奈川県にも富岡町から約4百人、世帯数で2百世帯の方が避難を余儀なくされています。2012年9月に神奈川県内で開催しました富岡町様の交流会には、富岡町職員の皆様もご出席頂きました。私達もその協力をさせていただきました。

そして、その時に来場された97歳のおじいちゃん、(お名前が定かではないのですが)、“誰か私を知っている人はいませんか”、これが、おじいちゃんの切なる言葉でした。ご出席頂きました職員の奥様をご存じとのお話を伺い、職員に方にお繋ぎし、お話をして頂きました。97歳が間違いでなければ、今は、100歳ですね。お元気か気になっています。その印象が強く残っています。

住民の皆様から色々ご指摘もあるかも知れませんが、住民の皆様は町の職員にお越し頂くことが、一番の期待です。当会も継続して協力し、交流会などの場を持っていきたいと思えます。また、大変ご多用とは思いますが、進めるべき事案も多いと思えますが、もし、町長もご都合が合います時は、ご来場いただけましたら、避難されています方々にとって、大きな元気に、励ましになるかと思えます。ご無理なく、話として受け止めて頂ければと思えます。

ご案内頂きました職員様には、バスの中でのご説明、下車してのご案内をいただきました。これも、良い悪いも含めて、参加したものは一様に、ほんの一部ではありますが、当

時のこと、現地の今のこと、知ることが出来たと思います。「自分の目、耳で体感した」と思います。本当にありがとうございました。

そして、職員様には、期末、ご異動のある中でのご対応、ご多用の中で、ご対応を頂きました、改めてお礼申し上げます。

職員としての役目、住民の方々への想い、ご家族への想い、ご自宅への想い、様々な局面、判断、ご対応、情報、動き、まさに生き字引です。

今後の為にも、是非に記録、お伝えが必要と感じます。私達は、そのほんの少しのこと、見て、聞いて、体感できましたこと、とても貴重なことと思います。

職員の皆様の住民の方々へ想いも、参加者一同、強く感じました。住民の方々も感じていると思います。

個人的に、翌日の12日午後6号線を北上しました。

夜の森、夜ノ森駅の裏手、学びの森、遺構のパトカーの公園など、再度赴きました。

天気が回復し、夜の森には多くの方が足を運んでいました。

町が一体となり、これからを築いて行かれますこと祈願いたします。

ご案内頂きました職員様

2012年9月の富岡町様の交流会のこと、覚えていらっしゃるでしょうか。

その時に来場された97歳のおじいちゃん、職員様の奥様をご存知とのことでお話しをしていただきました、とても喜んでおられました。

“誰か私を知っている人はいませんか”と席をお立ちになり。一生懸命のお声で…。

その後、残念ですが交流会でお目に掛ることはありません。

その時が精一杯、一生懸命にお越しになったんですね。とても気に入っています。

今回は、ご同乗頂き、ご案内、ご説明、本当にありがとうございました。

参加者も、目で見る衝撃が大きく、ご説明に付いて行けないものが多く、折角のご説明も十分にお聞きすることが出来なかったこと、大変申し訳ございませんでした。

参加者は一様に、ほんの一部ではありますが、当時のこと、現地の今のこと、体感したと思います。

お話ししたくないこと、辛いこともお話しして頂いたのでは、と参加者から声もありました。本当にありがとうございました。

お体にご自愛いただき、富岡町のため、ご活躍を祈願申し上げます。

研修でお話をいただいた職員様

参加者の、研修記録（視察して、研修して、参加して、富岡町様へ）を一覧にしました。
（後述）。

内容は、それぞれの個人の私見です。手を加えていません。それぞれの感じ方として受け取って頂ければと思います。

毛萱（仮置場、焼却場、減容化施設）、夜の森公園、富岡二中・井出自工付近バリケード境、富岡海岸（観陽亭）、双葉警察署のパトカー保存公園、文化交流センター学の森、毛萱スクリーニング場、と、今回視察させて頂きましたこと、とても有意義でありました。それぞれの場所が、全て、参加者にとって衝撃、ショック、愕然とする場でした。

その中、特に、町の職員の皆様が、発災時に住民の皆様を守ろうとした気持ち、想い、発生した事態への判断・行動、富岡の地への想い、そして、子供さん達の未来への想い、とても強いものを感じました。

これ程に、強い想いの方がいる町、町が一体となり、これからを築いて行かれること、ある意味、住民の方々にとってもとても心強いものと思います。

変わらぬ現実が続いていますが
お体に十分にご自愛いただき、明日へ進んで行かれますこと、祈願いたします。

本、視察研修の経験は、当会の活動報告等のなかで、可能な部分は紹介していきたいと思
います。

また、お話は、是非神奈川にもお越しいただき、お聞かせいただきたいと強く感じました。
“富岡町のその時、今、未来へ”と題して。

機会を設けることが出来るかは分かりませんが、少人数かも知れませんが、機会・場を設けることができれば、その時はどうかよろしくお願いします。

富岡町様、皆様、ご多用の中、誠にありがとうございました。
お礼申し上げます。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦
スタッフ一同
参加者一同

2. 視察場所

- (1) 富岡町役場下郡山連絡所
- (2) 富岡駅（車窓）
- (3) 夜の森公園周辺、桜基準木付近（下車）
- (4) 富岡二中・井出自工付近バリケード境（車窓）
- (5) 富岡海岸（観陽亭）（下車）
- (6) 文化交流センター学びの森（下車）
- (7) 双葉警察署北隣の「岡内東児童公園」パトカー遺構（下車）
- (8) 毛萱（仮置場、焼却・破碎減容化施設）（車窓）
- (9) 毛萱スクリーニング場（下車）

3. 視察行程・時間概略

- 11:00 いわき駅出発～6号線を北上
 11:50 檜葉コンビニ着（最終お手洗い）
 12:15 富岡町役場下郡山連絡所着（町職員様乗車）～視察～
 15:00 富岡町役場下郡山連絡所出発
 15:20 常磐道広野IC～いわき春木屋旅館着（16:15）

4. 参加者

(1) 参加者数

	合計	女性	男性
参加者	20名	8名	12名
宿泊者	16名	7名	9名
初参加者	1名	1名	0名

(2) 参加者年代

	30代	40代	50代	60代
年代	1名	3名	10名	6名

(3) 参加者地区

相模原市	横浜市旭区	横浜市都筑区	横浜市神奈川区	横浜市港南区
1名	2名	1名	3名	1名
横浜市青葉区	横浜市戸塚区	横浜市港北区	茅ヶ崎市	秦野市
2名	2名	3名	1名	1名
伊勢原市	葉山町	埼玉県		
1名	1名	1名		

5. 視察記録 (一部写真)



毛萱 (沢山のフレコンパック)



毛萱 (稼働した焼却施設)



夜の森 (桜)



富岡海岸 (観陽亭より)



文化交流センター学びの森 (災害対策本部)



震災遺産 (双葉31号車)

6. 視察研修記録

- (1) 視察して (事実・感じたこと)
- (2) 研修して (事実・感じたこと)
- (3) 参加して (事実・感じたこと)
- (4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)を一覧にしました。お読みいただけたらと思います。

※1、参加の記録の文章は、原則参加者のものとし、変更を加えていません。

記録上、不適切な内容・表現があるかも知れませんが、参加者の立場、環境も色々ございます、ご理解いただけましたら幸いです。

※2、記録の参加者氏名はイニシャルとさせていただきます。

(内部記録としては、実名版を保有しています)

※3、4月12日(日)は「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の見学を行いました、その内容も一部含まれています。

【参加者No2】 Y・M (男性、宿泊なし、60代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

放射線の半減期からすると復旧・復興なんてとんでもない話としか思えなくなった。すべての場所が除染できるわけでもなく、半減期は線量が半分になる期間であり、もともと線量が高いところでは半分になっても高いままで引き続き住めない場所であり、結局半永久的に住めないようなものである。

自分たち家族がある日突然避難指示が出て、どこか別のところに移動させられ、さあここで生活しろ、と指示されたとすると、怒りとともにどう生活を立てていけばよいのであろうか。事実を見たくて、知りたくて参加したが、知らない方がよかったかもしれないとも思った。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

夜の研修会に参加していないので省略。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

再び住民が住むにはまだ時間がかかると思った。

私の実家は農業を営んでいるが、後継者不在で、数年先には長年続いてきた農業を終わりにするであろうと思う。

我が実家のみでなく、周辺の農家も同じ状況にある。米の消費が減少しているから、当然の帰結であるが、どうすれば自分の田舎に住む人々の生活を支えられるかを考えさせられた。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

休日返上で、雨の降る中の案内をありがとうございました。

夜の森の桜並木周辺では震災直後から時間が止まってしまった光景を目の当たりにして、驚きを隠せませんでした。

手入れが止まった庭、あの日からそのまま放置された車、今にも住んでいた方の声が聞こえそうな風景がありました。

しかし、きれいな桜並木の傍らには放射線測定ポストが設置されており、それが線量の高さを示していて、今まで通り生活することができないのがすぐにわかりました。

富岡町文化交流センター学びの森では余震がある中、情報収集もできず、それでも被害状況収集にあたる職員の奮闘ぶりが想像できました。

短時間でありましたが、いろいろと考えさせられるときでした。私にできることといえば、周りの人に今の富岡町の様子を伝えることやボランティア活動ぐらいしかありません。

一日も早く元通りになり、住民の笑い声が聞こえる町に戻るようお祈り申し上げます。

【参加者No3】 N・A (女性、宿泊あり、40代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

富岡町内の区域割りや帰還困難区域に設置されたバリケードのことは知識(報道、写真、地図)として知ってはいましたが、実際に自分で訪れたことで、立体的な感覚として現実味を感じました。福島の方を交えた会話ではたびたび「放射能は目に見えないから怖い」という言葉が出ますが、バリケードのどちら側も見たい目は何も変わらない一方で、「立ち入りできません」という看板がもし出ず緊張感もあり、何が安全なのかが一瞬わからなくなります。

町役場の自家発電機が地震の揺れで動いてしまい使えなくなったため、代わりに災害対策本部が置かれた富岡町文化交流センターには、地図、被害状況のメモ、炊き出しのおにぎり、ペットボトル飲料などが当時のまま残されており生々しかったです。全国の自治体職員に見てもらいたいと思いました。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

震災当日と翌日、最終的に役場が郡山に移るまでのお話を伺って、限られた情報の中でどう判断してどう動くかというのが、それぞれの現場の方々、町の職員に委ねられたことがよくわかりました。～割愛～、富岡町では自力で手配しなければならなかったこと。～割愛～。

また、帰還困難区域は、単に面積の広さではなく居住人口の割合で言えば富岡町では大きなウェートを占めていることなど、町によって状況が異なるため、インフラ復旧工事の状況などを進捗率だけで比較されるのはつらいとお話がありました。

「いずれ帰りたいけど実際に帰るのは何年も先になる人」の居場所が必要だというお話には、そのとおりだと思います。自然災害のケースとは違う、何らかの特別な制度ができるといいのですが。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

避難区域から避難されている方の立場をあらためて考えると、自宅に帰るのに許可証をもらい防護服を着るといふことの異常さ、変わってしまった町を帰るたびに目の当たりにすることの精神的な負担について、知ったうえで接していきたいと思います。

2日目の「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」でも、農家の福島さんから直接お話を聞き、プロジェクトの方向性を確認できたのがよかったですと思います。復興支援という発想ではなく、震災はきっかけではあったけれど地域の活性化、産業振興を目指されているというふうに理解しました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

富岡町にいたのは数時間、お話を聞く時間も限られていましたが、とても密度の濃い研修でした。富岡町のご協力があったからこそその内容だったと思います。お時間を割いていただきありがとうございました。

大規模災害が発生した場合、マニュアルでは対応できないことも多いと思います。各地で防災に携わる人には、こうした視察や講演を通じて対応力を高めてほしいと願います。

【参加者No5】 M・T (男性、宿泊あり、50代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

(事実は、視察場所及び得られた映像を対象として想定)

※視察時の、職員様のご解説は、要約をご確認いただく必要がありますので、記録から原稿起こし後に再提出させていただきます。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

1. 「東日本大震災後の町の状況報告」平成27年3月 福島県富岡町
以下、東日本大震災による被災の状況 (記載項目)
1) 地震被害 2) 津波被害 3) 原子力災害 4) 人口動態・安否確認状況 5) 避難状況
6) 一時帰宅 7) 応急仮設住宅の入居状況 8) 復興に向けた取り組み
9) 当面の課題とその対応
2. 「とみおか復興のあゆみ」平成27年3月 福島県富岡町
以下、記載項目
1) 町の概要 2) 震災から現在に至るまで 3) 一変した富岡町(発生事象経緯を含む)
4) 町内の被害状況 5) 原子力災害 6) インフラ・ライフラインの復旧・復興
7) 心身ともに健康で 8) 新たなまちづくり 9) 新たな産業を創出
10) 町予算の推移(震災以前との比較) 11) 平成26年度当初予算の概要 12) 今後の課題
13) これまでの要望活動(一部抜粋) ※東京電力に対する要望を含む
3. 「都道府県別避難者数」平成27年4月1日現在
福島県内を除く46都道府県・国外別。総数4,330人・2,290世帯。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

- ・真実であると信じたことを、どのように受け止め、理解し、私自身の行動につなげて行けるのか。重い宿題をいただきました。
- ・改めて被災地の皆様の苦悩を思い、胸がいたみました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

種々のご負担をおかけし視察・研修を実現して下さいましたこと、厚く御礼申し上げます。
また、特別なご配慮に関しましては、～割愛～、十分理解いたしております。
更なるご負担の係らぬよう細心の注意のもと、一国民として、皆様のお役に立ちたいと心より願っております。

【参加者No6】 K・A (男性、宿泊あり、50代)、**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

- ・積み並べられたフレコンパックの夥しい数量に圧倒された。
- ・夜ノ森の桜はすばらしい。
- ・富岡海岸の観陽亭は高台にあるように見えるが21mの津波に飲み込まれてしまった。
- ・保存公園のパトカーの前には花や供物がきれいに飾ってあり、警察官他お参りにいらっしゃる方が絶えない感じであった。
- ・文化交流センターの当時の災害対策本部はホワイトボードへの書き込み、張り紙、食品等がそのまま残されており、時間が止まっているようであった。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

- ・避難時の逼迫した状況を知ることができた。
- ・写真を見せて頂き、伸びきった民家の雑草やネズミ・イノブタによる被害が痛ましかった。
- ・残してきたペットのお話には胸が詰まった。
- ・当時避難所での生活がいかに大変であったかを改めて知ることができた。
- ・散り散りに避難された方や職員の方の消息を集める苦労を知ることができた。
- ・3分化された除染の順番や損害賠償のこととか町が抱えてる極めて困難な課題を知ることができた。
- ・現時点では予定地の約20%が除染できたこと、除染完了予定の平成29年4月に帰還に向けての判断がくだされることを知った。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

自分として下記行動をとっていきたい。

- ・町の復興や帰還に向けて私がお手伝いできることは無いと思いますが、神奈川に避難されている方々が故郷を思い、町や避難者同士の繋がりを必要とされる限りそのお手伝いを続けていきたい。
- ・福島県内の仮設住宅に足を運び避難者の方との交流と共に、神奈川に避難されている方々と繋がりが持てるような企画を考えていきたい。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

- ・復興に向けて大変お忙しい中視察案内や被災後の説明をしてくださりありがとうございました。自分の目で見たこと、お聞きしたことを踏まえて避難されている方々に自分が何かお役に立つことはできないかをよく考えて行動していきたいと思っています。
- ・今後も富岡町に足を運び、復興に向けて町が変わっていく姿を感じ、まだ先になると思うが、できれば帰還者の方と交流を持ち繋がっていければと思っています。

【参加者N○7】 E・O (男性、男性、60代)**(1) 視察して(事実・感じたこと)**

夜の森公園周辺の真新しい住宅街の人の気配のない、言いようのない、光景。いろいろな報道で見聞きしてきたつもりでも、実際にこの目で、この足で、この鼻で体感するのはなんとも不気味な、そしてとても悲しい、やり切れない思いでいっぱいです。タイベックススーツを着たとき、初めはとても身体の引き締まる思い、緊張で一杯になった。本当に、目に見えない物質の漂う、非日常の空間にいたのだという現実は今でも信じられない。

文化交流センター“学びの森”＝当時の災害対策本部もとても衝撃的だった。生々しい手書きのメモなどと食糧などが散乱し、原発事故で緊急避難した様子がそのままに感じられ、ああここがまさしくその時の場所だったんだ！歴史の一ページの現場を見たんだ！という感じがした。

他にもいろいろと感じたことはあるが、この二か所での体験があまりにも強烈であった。

(2) 研修して(事実・感じたこと)

役場職員様のお話はとても生々しく、視察の時に聞きしていたら感じ方もいいは悪いかは別にして、もっともっとすべてに強烈になったのではないかと思う。

役場職員様はやはり富岡町のこと、家族、自分、人がとても好きで大事にしているのだと思うし避難時の対応する町職員の方たちの健康、生活環境等を大事にしていたのは素晴らしかった。このような方が町にいれば将来への希望も持てるのではないかと感じた。

(3) 参加して(事実・感じたこと)

今回このように企画していただきとても感謝しています。

自分、個人で現実にはなかなか行くことが出来ませんでした。

前にも書きましたが、報道で映像は見ていましたが実際に自分が体験するという事がいかに大切か、これは人間が生きていくうえ、すべてに言えることです。改めて感じました。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

視察時にご案内して頂いた役場職員様、淡々とお話されていきました。後から他の職員様の生々しいお話を聞いて、やはり当時を多く語りたくなくともつらいのだと思いました。ご案内して頂いたお二人、本当にお身体を大切に健康に注意されて過ごされるようお祈りします。

【参加者N○8】 Y・N (女性、宿泊あり、60代)**(1) 視察して(事実・感じたこと)**

桜の時期に夜の森に入れたことは、とても感じ入りました。
そして、人影がなく、咲き誇る木を見て、富岡の町の孤独、住民の心の抜け殻の部分を目の当りにした気がしました。

富岡駅もなくなり、海岸線には黒のフレコンパックの山々、除染に関する毎日の作業をどのような想いでされているのでしょうか？

『本当に富岡の町が復興できることを信じられているのかと・・・。

復興はいつの日か出来る日が来る！でも復活は??と復興は??と

今回、町の中に入り、その思いがまた強くなる自分が・・・、

こんな風には、町の方々には言うことはならず。失礼なのは承知ですが、とても感じました。』
そして、それを待ち続ける。ゆるぎない意志の継続の難しさ、一年の早さも感じました。

●夜の森 保育所、何か所かで、”原子力災害時集会所”の看板を見ましたが、無念です。

●観陽亭、観音堂

●文化交流センター 2011.3.11”安全大会”(記念品の熨斗紙のリボンが色抜け黒色になっていてびっくりです。)

パンフレットや4年前のそのままに”災害対策本部”そして生々しい、避難時の記録の数々、初めてその場に立った緊張感で鳥肌が立ちました。

●遺構になったパトカー 行方不明の佐藤雄太さんのご家族、増子洋一さんのご家族とも、その公園が重いものになっていないか、とも思いました。

(2) 研修して(事実・感じたこと)

役場職員様の説明になかなか付いて行けず、後から(見る場所沢山)、ついてゆくこと申し訳なかった。説明を聞いていなかった。

役場職員様、全くのボランティアでのお付き合い頂き感謝

何が本当の事? 事実なのか、何がいいのか、私達、当事者外の位置で思いあぐねることのごう慢さ。あらゆる立場の、あらゆる思いも、誠のもの。情報に一喜一憂せず、福島に寄り添い続ける、強く思いました。

役場職員様の世代もいつか交代の時が来る。その時の富岡は、どのように・・・と思っても仕方ないですが。変わっていく、どこも、何事も変わっていく、”帰れない家を別荘にする、娘の代になったら、その時に考えればいい” 実にその通りだと思う。

今、福島に対して出来ること、kfopの方向で。

(3) 参加して(事実・感じたこと)

研修便、準備の大変さも、さぞかしと思いますが
現地の方との数時間ご一緒出来ること、とても貴重なお話し、大切な便となりました。
感謝します。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

今回の研修便、ありがとうございました。

初めて文化センターの中に入り、あの時間、今まで感じたことのない時間、切迫感でした。

横浜に避難されている富岡町の方々、駅前のご夫妻もいらっしゃいます。

- ・” 駅に電車が入ってくる音で家を飛び出しても間に合ったのよ！！”
- ・” 原発で事務をやっていたの”、” 郵便局で働いていたわ”、” 公民館で良く習ったよ、みんなでやったわ”、” 夜の森、自慢の桜よ、ちゃんと見てきてね”
- ・” ネギ味噌？ そんなの買ったことなんてないわ”、庭にいつもあったもん” などなど。

町の職員の方々に横浜に来て頂けると本当に皆様うれしそうです。

そして、私達県外のもの達に時間を割いて頂けたこと。感謝します。本当にありがとうございました。

【参加者No10】 T・T (男性、宿泊あり、60代)**(1) 視察して(事実・感じたこと)**

初めての研修便、いわきに行ったことが無いことと、どんなことが学べるか失礼だが期待と興味で申し込みました。

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの見学」は、どんなことをするのか分からずの参加であった。

行ってみて、帰還困難区域にタイツベックススーツ・足カバーを装着して見学、いつもテレビで見ていた姿と同じ活動に驚いた。

見学の時、役場職員様が「ここに入るには手続きやいろいろ書類が必要でめんどろう・・・。」と話していた。

すんなり立って見学している私だが、企画作り、手続き運営をしているナベさんは、何も言っていないが大変だったのだと思いました。

ナベさんの思いが聞きたくてうずうずしている今です。

(2) 研修して(事実・感じたこと)

家に帰って家内から一番に、「新聞に載っていたよ。」と言われびっくりしました。

役場職員様からは「ここに住んでいた人は、年に5回しか入れない。」と聞かされ、見学しているとき「向こうから、こっちを見ている。」と言われた。

それが、新聞に載ったことを知った。凄いところに行って、大変な体験研修をしたことを改めて知らされた。

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの見学では、ザ・ピープ代表の吉田さんが厚く語る「これがいくつ売れたでなく。…」と考え方の大きさを知らされた。

更に現地の福島さんの話で8世帯、22人、内60歳以上が16名その町を見捨てない活性化しようとする意気込みに心打たれました。

(3) 参加して(事実・感じたこと)

帰還困難地区の夜の森公園で見学は、横浜に帰って新聞を読み、ここに住んでいた人が、中に入れずにフェンスの外から花見をしている中で、自分たちがここにいる良かったのかと思いました。

また、スクリーングの仕方、嚴重さから放射能の危険性を知らないといけないこと感じた。もっと放射能について学ぶとスクリーングに意味が分かるように思った。のんきな自分がここにいるようだ。

文化交流センターで3月11日の災害本部の現場に入り、その時のホワイトボード、机のメモや地図、アルミホイルに包まれたおにぎり等々様子に肌で触れ、当日の緊迫した空気に接した。

研修での役場職員様の話は、行政で先を現在の情報とこれからの先を見通した判断、即決の判断に驚きました。

もっと毎日そんな気持ちで生活をしなければいけないと考えました。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

4月11日から12日の2日間、貴重な体験と見学を有り難うございました。

私は事前の勉強をしていなく、「夜の森公園」面白い名前だな、いわきでは、どんなところな

んだらうどんな学びがあるのかなという程度の気持ちでいました。
タイベックススーツを着て、帰還困難地域に実際に入ること、桜の美しさがここに住んでいた人の気持ちを更に込めているように感じました。
役場職員様の話からその当時の大変さ厳しさをお聴きしました。
役所の立場、住民の為に即決判断・行動した姿を知りました。
そして今も、前と同じ富岡町の町に戻そうと頑張っている力、学ぶことが一杯でした。
また、オーガニックコットンプロジェクトの吉田さんや福島さんの話では、町の自然を守っていこうとする力、私は何をしているのかなと自問自答させられた思いでした。
横浜で、私がすることできること更に考え実行していきたいと思います。2日間本当に有難うございました。

【参加者N o 1 1】 K・N (女性、宿泊あり、50代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

福島48便では大変お世話になりました。

富岡町役場の方々との連絡、交通手段・宿泊先のご手配、資料等事前入念にご準備いただき恐縮しております。おかげさまで自身にとって大変有意義な研修をさせていただきました。ありがとうございました。

ひとことで言えば、当時のままの現状を見て愕然とし、やはりこうだったのか、と思いました。

富岡町の住民でも簡単には入れないエリアに進入させていただきました。想像していた通り、まったく手つかずの町。「復旧・復興」より前に、何百倍もの損傷を受けた町。解決の道が日本の誰にも判らない未曾有の被害を受け、いまだどうしていいのかわからない。町の長い桜並木を歩きながら、バス参加者しか通らない、ひっそりとした並木道を歩きながら、それでも美しく冷然と咲き誇る夜ノ森の桜が自分たちを、夜ノ森を主張していました。私に、桜並木は何も見えない、感じられないものへの恐ろしさ、人間の愚かさ、傲慢さを訴えていました。たとえ町が帰っておいでよ、とコールしても、これじゃ寂しすぎる、不安すぎました。

富岡海岸で遠くに見る東電の原発は、無残な廃屋となった巨大コンクリートの塊でした。津波の被害で荒れ果てた観陽亭はこれまで宮城や岩手でさんざん見せつけられてきた、見慣れた様相でした。

ヒトに見えない、感じられない放射能という悪魔のせいで、宮城・岩手とは時代遅れで観陽亭も「そのまま」にされていました。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

バス移動中の役場職員様からのお話を聴き、夜はよりたくさん資料をみせていただきながら、当時の富岡町がとった判断や行動、現状のお話も伺うことができ、いつものボランティア活動では解りえない貴重な経験をさせていただきました。

4年以上経った今も、町をとにかく前進させていくんだ、という熱意を感じました。

と共に、4年の間に起った日本・外国での様々な被害を見たり、聞いたりしていてもまだまだ、福島は、海岸は、富岡町は、これからなんです、頑張り続けているんです、ほかにもいろいろなことがあるから、とやり過ぎずな見放すな、と訴えていらっしやいました。

これまで多くの資料を作り、集め、残していらっしやること、それを私たちにありのまま見せてくださった。感謝です。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

原発で便利で楽な生活をしつづけてきた日本国民です。(東電から電気を受容してきたのは日本の限定地域ですが、他の原発がほかの地域で同じように電力提供しています)

こんなことになれば想像はできたのに、それでも安楽な生活を選んできた、国民全体の責任です。今回間近で富岡町の訴えを聴けた者として、責任を感じています。

聞いたことを、体験を、感じたことを自分のできる範囲で他に広める実行責任があります。実際には自分にできることがほんの少しです。なので、できることをし続けていきます。東電の責任、国の責任なんて言うていられません。国民の責任です。

普通の暮らしを取り戻すための権利は日本国民ひとりひとりに与えられた平等な権利です。

権利を取り戻すまでは国民全体でバックアップすることです。国民の税金を充てて当然です。一日でも早く同じ国民がこれぐらいでいいでしょう、と思って日本で暮らせるようになりますように。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

今回ご案内いただいた富岡町職員の方々に厚くお礼申し上げます。週末に関わらず熱心に今の富岡町についてお話を聴かせていただきました。

役場職員様にはバス立ち寄り場所各所で細かな説明をしていただき、いつものボランティア活動では得ることができない経験でした。役場職員様(現在の肩書がわかりません)には移動先の大事なお仕事で大変お疲れのところ、私どものために時間とエネルギーを割いていただきました。

富岡町、以前の私には縁遠い福島の一(いち)地域でした。今は富岡町が、富岡町出身の方々が本当に好きです。応援させてください。また訪問させてください。お願いいたします。最後に、これからまだまだ役場職員の方々が先導して町の復興にあたっていかれると思います。

お忙しくてもたまにはフット力を抜いてお休みください。ご無理がお体に差し支えないよう、ご自愛ください。心よりお願い申し上げます。

【参加者N○12】 H・K (男性、宿泊なし、50代)

(1) 視察して(事実・感じたこと)

災害対策本部を見て言葉がありませんでした。

(2) 研修して(事実・感じたこと)

年に1回は企画していただきたいです。

(3) 参加して(事実・感じたこと)

これからも福島応援します。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

【参加者N o 1 3】 K・H (女性、宿泊あり、50代)**(1) 視察して(事実・感じたこと)**

夜の森の桜は、花が見事に咲きそろう、満開の桜のトンネルはとても綺麗でした。それでも人の手が入らないことにより、病気(デングス病)にかかっていたり”ウソ”と言う鳥に花を食べられてしまって、花数が少ないのだそうです。この並木は道も土も桜の木も除染が終わっているようで、帰還困難区域でなければ、みんなが集い花見の人たちでいっぱいになっていたはずの場所です。なのに、今は帰ることが出来ない方達が沢山いらっしゃいます。

何時になったらまた花見をして楽しそうな笑顔で溢れる日が来るだろうと思う。

今度はタイベックスを着ないで、桜の花を見に来たいと強く思った。

・文化交流センター学びの森は、震災の後、災害対策本部となった場所です。地震と津波による被害が次々に報告されていたことをホワイトボードに書き込まれた文字から、痛いほど感じ取ることが出来た。

原発事故が起き、慌てて対策本部を閉め、避難せざるを得なかったことから分かりました。実際にこの目で見てみて、これほど緊張だったのか、本当に切羽詰まるというのは、こういう状態になるのかって、ここに来て初めてわかったような気がしました。

・海沿いの道を走って、毛萱焼却施設付近を通ったときは、道の右側にも左側にも大量のフレコンパックが積み上げられていて、まるで両側がフレコンパックで出来た壁の様でした。ここの焼却施設で処理されるために置かれているものです。全部が焼却されるとこの施設は無くなると聞きました。その日、一日でも早く来ることを祈ります。

(2) 研修して(事実・感じたこと)

・役場職員様から災害初期の頃からの様子を沢山聞かせて頂きました。川内村へ避難、川内村から郡山のビックパレットへの避難、三春町、田村町にも逃げられた、行く先々にはすでに避難してきた人達で満杯状態

何か所も、何か所も避難先を変えながら不安だったと思います。

・富岡の人達の行儀の良さ、写真を見せて頂きながら話して下さいました。避難先へと急ぐ気持ちの中、みんなが順序良く左側に寄って一列になって川内村に逃げた。”これが富岡の人の良いところだよ”！！

みなさん不安の中でも、冷静に行動されていたのはすごいと思いました。

・”どうして”にここにこして逃げられるの?”と聞かれることがあると言いました。”笑うしかないだろう”と答えると言います。

悲しんでばかりいられない、下を向いてもいられない、だから笑うしかない。

心から笑っているわかではないと思う、そうして前に進んでいくしかないんだよ、と言いたいんだと思う。強い人ですね。

・避難指示区域の区分けは、道一本隔てただけで、賠償のしかたも違って来る、これは避難されている方からも良く聞く言葉です。本当に道一本の外と内、空気はつながっているのに、と思ってしまう。難しいですね。

・～割愛～。そこに富岡の方々の複雑な気持ちと歯がゆさがあるのかなと思いました。

- ・資料として、たくさんの写真を持ってきてくださいました。全部見ることはできませんでしたが。家屋が小動物に荒らさらされている様子が心に残りました。富岡に帰られるたびに家の様子が変わってってしまうのは、本当におつらいことだと思いました。
- ・視察を終えて、第2原発内の毛萱スクリーニング場にて下車し、一人ずつスクリーニングを受けた。原発内に入る時、目に飛び込んできたのが、”写真撮影禁止”の文字だった。何て言えば良いかわからないけど、なんか嫌だった。
- ・今回、役場の方のご協力により、帰還困難区域を含め富岡町をバスで回っていただいたおかげで、町の皆様の災害時の様子や、その後の避難の大変さをほんの少しだけですけど知ることが出来たのではないかと思います。

(3) 参加して(事実・感じたこと)

参加して思うこと。福島、特に海側はまだまだ復旧の半ばで、復興にはまだまだ時間がかかると思います。
小さな力であっても、何か役に立てることはあるはずと信じて、長く応援、支援を続けて行きたいと思いました。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

このたびは、視察研修にご協力頂きまして、ありがとうございます。
神奈川県の方へ避難してこられた方々と縁あってお付き合いをさせて頂いております。皆様方が生活しておられた富岡の町のことを、少しでも多く知っておきたくて参加させて頂きました。
視察にご案内頂きました役場職員様、勉強会でお話して下さいました役場職員様、大変お世話になりました。
夜の森の桜の花はとても綺麗でした、あれほど長い桜の並木は今まで見たことがありません。文化交流センター学びの森では、外観と中の様子の違いにギャップがありすぎて、かなりショックを受けました。
震災当日から災害対策本部となり、原発災害で避難になるまでのことを部屋全体が教えてくれているようでした。
皆様が本当にご苦労の連続だったと推測いたします。
これからもまだまだ避難生活をされる皆様、復旧にご尽力される皆様、どちらもそれぞれに大変なことも多いと思いますが、どうぞお体に気を付けながら生活していただけたらなと思います。
これからも富岡町のこと、福島のことを、応援、支援続けていきます。

【参加者No14】 S・K (男性、宿泊あり、60代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

- ・町の大半が帰還困難区域と居住制限区域に指定されている富岡町の現状を、目でしっかりと見ることができました。
- ・津波による人的被害は他の市町村より少なかったものの、最大約 21m の津波の高さの凄さを、観陽亭の富岡海岸からの高さを見ることで、想像を絶する高さであったことを実感しました。
- ・JR 富岡駅周辺の津波被災家屋が 4 年経った今もそのままの姿で在ることに、原発事故の影響の大きさを改めて感じました。
- ・帰還困難区域にある夜の森の桜並木は、道路だけは除染されているとの説明でしたが、道路表面で計った線量は高い所もあり、高線量区域の除染の難しさの一端を感じました。
- ・3月11日、12日の2日間だけ使われた災害対策本部(学びの森)が避難当時の状態のまま残されていたり、津波で被災されたパトカーが公園に保存されていたりと、震災遺構の印象を受けました。
- ・6号線が全線開通したためでしょうか、想像以上に町中の車の交通量が多く、除染等の復旧活動も盛んに行われているとの印象を受けました。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

- ・震災と原発事故直後の全町避難の様子について、全体像とともに細部についてもいくつか話を伺うことができ、想像を絶する当時の大変さを垣間見たように思います。
- ・昨年8月実施された富岡町住民意向調査の結果、「富岡町に戻らない」と決めている世帯が約半数もあり、町の大半が帰還困難区域と居住制限区域に指定されている富岡町住民の気持ちの表れを感じました。
- ・また、「富岡町に戻りたい」と考えている世帯は約1割とのことでしたが、富岡町のHPで調査結果を見ると、この1割の回答世帯のうち避難解除後すぐ戻りたい世帯は約36%、回答率51%での実数で約170世帯に留まっており、かつ、この1割の回答世帯のうち「時期は決めていないがいずれ戻りたい」世帯が約4割に昇っているので、避難指示が解除された先も富岡町は難しい状況が続くように思いました。
- ・除染等がようやく始まったところとのことなので、住民の方々が戻るまでにはまだ時間がかかると感じました。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

- ・視察も研修も全てがとても有意義で貴重な体験でした。
- ・被災当時責任ある地位にあった職員の方から、研修で貴重なお話を聞くことができました。そして、先の見えない災害に直面し全町民避難という想像を絶する難題に立ち向かって、この職員の方の取られたみごとな対応の仕方に感動すら覚えました。決断すべき時に決断し、かつ組織や保身のためではなく住民のためを第一にした決断をされた、と感じ取りました。この方が居てこそ富岡町の避難ができたのではないかとさえ思いました。
- ・また、この方は、決断するにはいろいろな知識を持っている必要がある、と話されています。

した。忘れないよう肝に銘じておきたいと思います。

・最後に、私は参加しただけですが、この視察研修を企画して準備された kfop スタッフの皆様には頭が下がります。スタッフの皆様、ありがとうございました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

・役場職員様には、休日にも係わらず富岡町の案内、被災当時の話をして頂きほんとうにありがとうございました。全てがとても有意義で貴重な体験でした。見るのと聞くのとでは全く違う、ということが今回一層はっきり分かりました。住民の方々が戻るまでにはまだ時間がかかりそうですが、こえていきたいと思っています。

【参加者N o 1 5】 M・Y (男性、宿泊あり、40代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

参加メンバーと四倉の道の駅まで無事に到着しました。

帰りも代表が以前活動したところを通過しながらひたちなかまで春を満喫しとても充実した工程でした。

今回富岡町の協力のもと災害対策本部となった文化交流センター(学びの森)と帰還困難区域:夜ノ森公園周辺を視察した。

【文化交流センター(学びの森)】

文化交流センターに入りまず感じたことは、異様な空気感、雰囲気は尋常ではなかった。

震災当初の形を残している為、今にも避難された方の声や指揮をとる方たちのこえが聞こえてくる

そんな体験でした。

私は、防災体制(通信、連絡)と避難指示が出た時の輸送関係の質問をしました。

当初、防災対策室にするべき庁舎が震災により非常電源等使用不可となった為

隣接する学びの森を対策本部とし住民の避難指示等を行った。

連絡については、各職員に現場まで向かってもらい情報を収集し、本部に戻って報告をおこない

通信機器(PHS,携帯電話)はつながっていたが使用していなかった。

現場の指揮命令系統がしっかりしていたのと

個人的な意見ですが、当日安全大会が開催されある程度の準備ができていたのも

現場担当者が冷静に判断できたのではないかと

この話を聞いて防災訓練を行う時にどのような意識を持って行えばいいかと

大変勉強になったのと指揮を執るものの決断力、判断がいかに重要なかがわかった。

【夜ノ森公園周辺】

初めて帰宅困難区域には行って感じたことは、とても静かな事

生活感がなく当たり前ですが声は聞こえない。

この実情を目にすると、復興・再生・帰還に向けて加速させうる起爆剤をたとえ国が用意できたとしても難しいのではないかと

警察が地域警備を行っていて建物の人為的な破損は見えなかったが

こんご警戒レベルが下がり人の出入りが可能となった時に防犯体制がとても気になった。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

お話をうかがう前に富岡町とは、福島県とは・・・

事前にもう少し勉強をすればよかったと反省しました。

お話は、より深部に掘り下げた内容で資料を閲覧しながら当時の対応をうかがいました。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

いままで Kfop の活動に参加してきた内容と違う趣旨を企画していただいたことに感謝します。

ありがとうございました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

今回ご案内していただいた皆様にとっても感謝するとともに

この経験したことを地元で発信し感じ取って少しでも福島復興のお役にたてればと思います。

ほんとうにありがとうございました。

【参加者No16】 T・H (男性、宿泊あり、60代)

- (1) 視察して(事実・感じたこと)
- (2) 研修して(事実・感じたこと)
- (3) 参加して(事実・感じたこと)

(総論)

考えるところの多い、有意義な2日間でした。

代表がおっしゃっていた「実際に見てみる(感じてみる)ことが大切」を実感した2日間でもありました。

(本文)

☆まずは小雨の中、警戒ゲート(帰宅困難区域ゲート)を抜け、桜満開の夜ノ森公園へ。

・初めて手にした「タイベックス・スーツ」。「靴カバーは確実に」との指示に、奮闘すれど狭い車内での着替えで悪戦苦闘する。

・満開の桜並木～富岡地区住民の“心の支え”、だったという桜並木も、あの日以来、街に人の姿はない。通りに笑顔があふれる日は、くるのだろうか。

・いま、この地も除染が進み、居住制限区域に“ランクアップ”、されたという。

とはいえ、今後は“関係ない人たち”が乱入、防犯(室内荒らしなど)の心配も。パトカーの巡回が増えたとはいえ住民たちの心配と気苦労は尽きない。

・マスコミの世論調査では、お年寄りの多くが「帰りたい」との結果が出たという。

ただ、そのマスコミ報道には「帰りたい」の前段、「みんなが帰れば」の一文が“意識的”に抜かれているとか。

同調査では、若者たちや働き盛りの壮年層の人たちの多くが「帰郷を諦めた」との結果。

お年寄りとの気持ちに大きな隔たりがあり、家族そろっての帰郷には、もはや「あきらめ」の感情も。

今後、除染が進み、住民が帰れる環境となっても現実には??がつく。

当地で聞く現実と、一般社会の意識の乖離はいかんと埋めがたい。

・この日、当地での放射線汚染測定値は空中(地面より1m)「0.2㏩シーベルト毎時」だったが、地表は「3㏩シーベルト」(?)と、“限りなく”高い。除染の“困難と限界”を感じる。

☆富岡海岸でバスを降り、いまだ復興の片鱗さえも見えない当地で津波の被害状況を目視する。

～海岸に面して“放置”されたホテル(～割愛～)の青く鮮やかな色彩の看板が目飛び込んで来た。

とはいえ、いまだ復旧の手一つ入っていない。風雨にさらされ、荒れ果てたまま。

そのホテルのオーナーは、いま、別の地で「仕出し弁当屋さん」を始めて、結構、繁盛しているとか。

何故かホッとす。

～大震災後、当地の海を見る機会が数回あったが、いつも波が激しく打ち返し、海の色は暗く沈んでいた。

当地で育ち、私がかつて遊んだ「真っ青」な海は、何処に行ってしまったのだろうか？ 無残な心象風景が、海全体を灰色に染め、私にそう見えているだけなのだろうか？

☆「パトカー保存公園」をへて「文化交流センター学びの森」建物へ
～強烈な衝撃を受けた。

津波、原発事故、そして住民避難……“その日”が当時のままに“保存”。そんな役場対策本部が設置された部屋に入った時だ。

被害報告を書きこんだ B4 紙が、簡易テーブルの上に散乱。当時の混乱状況が、目に飛び込んで来る。

あの日の緊急食糧だったのであろう「おにぎり」は、銀紙で梱包されてはいたが腐敗し異臭を放っていた。無残過ぎる光景だった。

富岡町の「震災非難マニュアル」ファイルも、机上に無造作に置かれていた。「全然、役に立たなかった」の音が、むなしく響く。

～当時の混乱状況を如実に表しているこのセンターを、その日のままに保存できないものだろうか、そんな思いが心をよぎった。

～富岡町には立派な公共建物が多い。原発誘致の見返りだ。この「文化交流センター」もその一つ。建物入口には、寄付で建てられた旨のプレートが誇らしげに貼ってあった…。

☆放射能汚染ゴミ仮置き場、大型焼却炉のある毛萱地区へ

～現地に近づくや、例の黒袋に包まれた放射能汚染ゴミの山が目飛び込んで来た。

3段に積み重ねられ、行けども、行けども黒い袋の山、また山。

その隙間を縫って、バスがゆっくりと進む。

黒袋の一つ一つに「○」や「×」印が記されている。印の意味は不明だ……「髑髏のマークにすればいい」そんなつぶやきが聞こえた。

余談だが、この無数の黒袋の値段は、一袋1ト入りで2万数千円もするという。

～巨大焼却炉を車窓から見る。これは、全国の同様施設より10倍の規模で24時間フル稼働という。

建物正面には、～割愛～、など、各企業や役所の名が功名争いをするかのように「大書」してあった。

☆視察を終え、被ばく程度を測定するスクリーニング場へ

～場所は福島第二原発敷地内。測定してくれるのは東電職員たちだ。

その被ばくデータ結果より、職員たちのニコリともしない無表情が気になった。果てしなく続く単純(?)ルーティンワークに疲れ果てているのだろうか。

原発事故処理の途方もない困難さ、これからも続く長い長い復興作業。賽の河原で石を積むような作業の連続……今後の困難に胸が痛む。同時に、最後まで寄り添うことの大切さにも思い至りました。

～「これが常磐線の跡でした」……案内してくれた“住民”が呟いた言葉だ。

「常磐線の跡です(・)」ではなく「跡でした」の過去形呟きに、遅々として進まない復興に

住民の「あきらめ」と「虚しさ」を感じました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

・案内してくれた富岡町町役場の方、そして「マイクロバスの運転手さん」、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

・ちなみに「クマネズミ」は、いま、全国で“深く静かに”ビル街を浸食している、そうです。

※以下、現場作業員たちの“裏”レポートがありました。ご参照まで。

・除染作業者の過酷さが生んだ医師との懸け橋～ロンドンから被災地へ赴任した内科医は見た～新しいネットワーク～割愛～。

【参加者N○17】 M・K (女性、宿泊あり、50代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

ゲートをへだてて、タイベックススーツ要・不要となる。
人のいない街、家々、桜並木、天気が良かったら、より寂しさ、むなしさがあったかと。
雨がせめてもの救い。桜、手入れされていないが咲き誇っていた。
学びの森は、当時の混乱した様子が生々しく伝わってきた。役場の方々の責任感を持った行動に頭が下がる思い。
あの時、画面を通して見た仙台空港、あの時の恐怖感が蘇って、震えて涙が出る。
その場に立って、次々に突きつけられる現実にはせまられる判断、大変つらい、きつい等と言う言葉では表せなかったと推測。
原発エリア内はなぜ撮影禁止なのか?そんな子供のような疑問が残る。
パトカー、最後まで職務を全うしたお二人、佐藤さんも何とかご家族の元に帰れることをお祈りします。
壁のように積上げられたフレコンパック、仮置き場、焼却、ものすごい大金をつぎ込んで、多くの人々の労力を注ぎ込んで、それでも収束は見えず。
何と愚かなことをしてしまったのかと思うばかり。静かな海の向こうには原発、人の声のしない街。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

当時、富岡町職員だったお二人に話を伺う。
夜の森の桜並木が、いかに賑わっていたか、地震後の津波からの避難、原発からの避難、ある程度の情報は得ていた積りだったが、現場は戦場よりもひどい状況だったとのこと。
地震での直接死は26名、パンデミック用に備えていた食料、おむつ等を放出するという機転を利かせた職員さんの対応あり。
暖をとるためにガソリンがなくなり電気も消え、どれほど心細く、強い恐怖感だったかと。
繰り返してきた訓練は、いつもハッピーエンド、現実異なる。
～割愛～から連絡がないまま、へり、サーチライト、怒号が飛び交う。訓練では「バスに乗って逃げましょう、収束したので戻りましょう」
実際はバスは既に使われ、ガソリンも無い状況。唯一とも言える幸いは、北と南の道路が陥没していたために西へと逃げたこと。
安全のためにと朝から声掛けをし、17時過ぎには避難を終えたと。
三春町、川内村も許容範囲を超える人数を受入、～割愛～も融通してくれたとの事。
しかし電話はつながらず、米軍には80km規制で宮城県、岩手県へ。見捨てられたような感覚を持たれた方もいたのではないかと辛くなる。
～割愛～も消えた中、想像力を働かせ、他村とのやり取りをし、住民を避難させた役場の方々はずばらしかったと思います。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

原発反対。

人の手に負えないものは作ってはいけない！！

未来を守れな世の中であってはいけない。

改めて知ること、初めて知ることがとても多かった。

渡辺さんを始め、他のメンバーの方々が様々な知識を持っているのに本当に何も知らないことを改めて感じた。

百聞は一見にしかず、考えることは得意ではないが

やはり目で見て、肌で感じることに、より一層復興への思いは強くなった。

いつものボラバスもそうですが、計画～準備がとても力が入ることだと思います。

ありがとうございました。

2日目の見学先の、コットンプロジェクトの吉田さん、福島さんのお話も貴重なものでした。荒れた土地、過疎の進集落を何とかするにはお金も掛るからから・・・と言うお話でしたが、あの数万円？のフレコンパックを積み重ねる様なことを招く原発に掛ける予算に比べたら微々たるものかと。

文化文明の進歩は必要だけど、もっと自然に、原点に立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

(4) 富岡町様へ(町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

思い出したくないこと、口にしたくもないことも多かったのではないのでしょうか

そんな中、4年前のこと、その後のこと、現実と想い。

沢山のお話を本当にありがとうございました。

家族のこともありながら町民のためにご尽力された職員の方々には、本当に頭が下がります。ふるコミでお会いする富岡町の方々にも、少し違った思いで接することが出来るかも知れません。

【参加者N○18】 K・O (女性、宿泊あり、50代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

地震、津波、原発の被害にあった場所は心が痛む思いになる。
人の住まなくなった住宅地を後に、避難された方々のことを思い、すてきな住宅地だったの
だろうと想像できるだけに
今の状況や戻れるか、戻りたいか、と言うよりも、こんな状態にしてしまってくれた原発は、
自然災害とはまた違った意味を持ち
住民の怒りは、どう処理して行けるのかと思った。
また一方で、原発のお金が使われたと思われる公共施設を幾つか見え、悲しく思えた。
人のいない夜の森の桜、今も原発は近くにあり、処理されていない現状、焼却施設が出来た
ととは言え、不安もありながら処分を待つ
山積みされたフレコンパックの山、タイベックススーツもゴミになって行くのだと・・・。
美しい海だったのに、見えない汚染により、皆が戻れる海にいつなるのだろうか、福島の
有無を見て思う。
この状況を色々な方に知ってもらふ必要はあると感じた。
災害対策本部の様子は、短時間内での情報収集、手配、すごいと思った。
生々しいとさえ思いながら、いつか我が町でもあり得るのだと、再認識した。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

富岡町の人の誇りを感じた。
どれだけすてきな町なのか、町だったのかが分かった気がする。
国、県への不信感が沢山ある中、今後の富岡町はすべきことがたくさんあり、何とか継続
して町を戻していけるように
努力と実行をしているのだと分かった。
この数年は短くも長いもので、まだこれから先、数十年先を考えて行かないと、富岡町の復
興への考えは進んで行けないのだと
子や孫が戻ってくるのは、今わからなくても、やるしかないのだ。
これから除染が①『空中除染』など増々必要となるのに、予算がなくなる、後手後手となっ
ている。
事業を進めて行くために、②『動くであるいのだということ』、全てはわからなくても、当時
の話聞き、人との関わり、信頼と極限状態での
人間の想いは、伝わってきた。
頂いた資料の封筒をみて、事務所・支所・出張所、悲しい現所だと思った。
また、神奈川含め他県の他町へ避難した方々③「と」たくさんなのだ改めて感じる

(3) 参加して (事実・感じたこと)

今回念入りに準備を進めて下さったなべさん、車のドライバーの方々へ感謝いたします。
新聞では多少情報が入ってきても、富岡町に入ってみて、無力感が一杯になりました。
知らないではいけないことの一つだと思いました。
役場職員様にも、案内をして頂き、少しでも前に進んでいこうという気持ちが伝わって来ま

した。

役場職員様は、当時の細かな話をもっと聞きたいと思えるような話を山盛り短時間内にしていただき

その時にどう判断し、行動して行くのかがなかなかできない視点で、状況判断し、指示されたのかと思うことが一杯でした。

頂いた資料と共に、これから作成する富岡は楽しみです。

また kfop の活動に少しずつ携わっていけるように心したいと思いました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

富岡町の皆さんの町に、住んでいた町への想いが少しわかってきた気がします。

富岡町役場が一つになり、色々な方々の生活が成り立つ日が一日も早く来るようにと思います。

この様な貴重な一日を過ごすことが出来て、本当に良かったです。

役場職員様にはバスの中、歩きながら、話を伺い、きっとあれもこれも話したいのに、という感じもある中、皆さんからの質問にも、その都度話をして頂き感謝いたします。前にどんどん進んで行けるようにと思います。

役場職員様には、これまでのことを話して頂き、短い時間の中、沢山の資料と共に人間の希望、誇りを感じました。

仕事の間富岡住民へ配る冊子の作成はとても素晴らしく、拝見させて頂くことが楽しみになりました。

皆様お体にご自愛ください。ありがとうございます。

【参加者No20】 M・S (女性、宿泊なし、50代)**(1) 視察して (事実・感じたこと)**

宮城県に何度かボランティアに行っていますが、全然それとは異なる感覚を覚えました。南三陸などは、津波でなくなった海岸線にかさ上げた土がピラミッドのように並んでいて、それもまた異様な風景でしたが、家などそのままに残っている。一見はなんの変わりもないような風景に時間がたつにつれて、言葉が出なくなってしまいました。

桜の美しい並木は、寂しさが益々込み上げて来て、つらかったです。

こんなに切ないお花見をすることになるろうとは思っても見ませんでした。

「視察」と言うことなので、本当は他の方のように、写真を撮ったりして、後に、自分のこれからのボランティア活動や、他の人に伝えることをしなければならないのに、カメラを向けることが出来ませんでした。

(2) 研修して (事実・感じたこと)

この日本の中に (一見平和な・・・)、こんな場所があるとは思えなかったが、実際来て見て、現実なんだと分かりました。

ゴーストタウン、ふるさとそのもので「人がいない」「生活がない」の意味を理解するのは難しく

感覚として、3.11に起こった地震、今までで見てきた津波の被害とは全く違う、原発による被害を体感できたことは、得難いことでした。

(3) 参加して (事実・感じたこと)

参加して良かったです。防護服を着たり、スクリーニングしたりする経験をして、大変なことが起こってしまったんだと実感しました。

これから、自分に何が出来るかわかりませんが。まずは知ることが出来たことに感謝します。そして、今後の自分の人生の中で、忘れることなく。

何かの形として、ほんとうに微力ながら出来ることをしたいと改めて思いました。

(4) 富岡町様へ (町長、ご案内・研修いただきました方へお礼、富岡町の皆様へ)

ご案内していただいた、役場職員様、ありがとうございます。

リアルな話をお聞きすることが出来ました。

役場職員様はじめ、町の皆さん、どうかお体に気を付けてこれからも大変だと思いますが

(無理しない程度に)頑張ってください。遠くから応援しています。また、機会があったら、富岡町にお邪魔させて頂きたいと思います。

(補足)

1. 視察研修便参加者アンケート集計 「() 内は回収・回答数です。」

(1) 参加のきっかけ

- a (7). 福島でボランティアをしたかった
- c (4). 日程や行程がよかったから
- d (2). 知人・友人にさそわれて
- e (5) その他
 - ・避難されている方々のふるさとの地に立って、色々なことを感じ取り、現状を見つめたかったから。
 - ・現地を自分の目で見たかったから。
 - ・自分の目で富岡町の現状を確認しておきたかったから。
 - ・研修便に参加したのは、今の(富岡町)現状を自分の目で見て、役場の方の話を伺い参加者同士で感じたことを共有し、考えたかったから。
 - ・富岡町の視察に参加したかったから。
 - ・福島を知りたい。福島の本物の姿が知れる機会である。

(2) 出発前の kfp からの案内

- a (11). ちゅどよかった
- c (1). 多すぎた
 - ・どのメールに何が書いてあったか後で探しにくかった。件名にキーワードを入れるといいかも？(例：行程、参加費、配車、など)

(3) 今回の活動(視察研修)は如何でしたか

- a (7). 非常に満足
- b (6). 満足

(4) 活動(視察研修、全般)時間について

- a (9). 今回と同じでよい
- b (2). 16時位まで、4時間位 ※視察としては丁度良かった。

(5) これからも参加したいですか

- a (13). 参加したい
 - ・毎回参加が出来ないけれど、少しでも足を運んで何か伝えたい

(6) 活動(視察研修、全般)についてのご感想・ご意見・伝えたいこと

- ・百聞は一見にしかず
- ・今回は視察研修に参加させていただき、富岡町、夜ノ森の桜のトンネルの中を歩きました。本来なら満開の桜を見る人達で賑わっていたはずなのに、今は見る人も少なく寂しい、くやしい。富岡の人達の気持ちにまだまだ近づけない、何もできていない自分に気づいた。桜の花はとても綺麗でした。タイベックスを着ないで見に来られる時が早く来るといいのに、と思いました。
- ・視察研修とても良い時間だったと思います。富岡の役場職員様はボランティアとして参加して下さった事、お忙しい中、感謝あらためて。

- ・初参加でしたが、みなさん慣れたごようすで、リラックスできました。
- ・学びの森の災害対策本部を見学させていただき、4年1ヶ月前そのままの空間が残っていることにショックでした。これからも「出来る時に、出来る人が、出来ることを」をモットーにボランティアを続けて行きます。地元の地域防災拠点運営委員も続けます。
- ・長く活動を継続してほしい
- ・全員が一泊できたとすれば、夕方から食事までの研修だけの時間(食事前)を設けることができたかもしれないと思った。(一日動いたあと、食事、そのあと研修といっても集中力が欠けてしまった)視察研修にまた参加したいので企画してください。(他力本願ですみません)
南相馬便に乗っているボランティア、これまで福島に興味があつたり、係わった方にもっと現状を伝える・知ってもらふ機会が必要と思う。
- ・福島の素晴らしさの発見。
- ・富岡の役場職員様さんというリーダー、生き方に触れたこと
- ・ナベさんの11日に企画した思い
- ・この体験を横浜でどおするか?自分への宿題。

(7) kfor の今後の活動(全般)に期待すること

- ・活動の継続
- ・地道にこつこつ、できることをできるだけ止めずに続けていって欲しいです。私も日程の合う時に無理しないでできるだけ長くご一緒させていただきたいと思っています。
- ・現地をよく知ることの大切さがよくわかりました。情報を共有できるよう、情報をお持ちの方、どんどん発信おねがいをしたいと思います。
- ・これからも内容をスポットに絞ったものを企画してください。
- ・継続して頂きたい。それだけを望みます。
- ・研修会は現地を見るチャンスで、なかなか今がどうなっているか知るチャンスがない。研修会を広める努力をしてほしい。
- ・首都圏に避難している方とも kfor として直接の支援、関わりができるといいと思うお話を聞く、現地と一緒にいく(受援者向けの案内チラシを作る?)
- ・ボランティアバスなど、今後も長く続けていただければ幸いです。
- ・継続。現状視のため。お手伝いしたいから。
- ・継続

(8) 参加者状況

性別 女性(5) 男性(7)

年代 20代(0) 30代(0) 40代(1) 50代(6) 60代(4)

職業 会社員(6) 自営業(1) パート・アルバイト(2) 家事専業(1)

定年(1) その他(1)

被災地ボランティア経験

初めて(0) 2~3回(2) 4~5回(3) 6~9回(0) 10回以上(7)

2. 会計

【 予算A : 全体予算(実績) 】

収入				支出			
項目	金額	個数	合計	項目	金額	個数	合計
参加費	4,000	20	80,000	宿泊費	7,710	17	131,070
宿泊費	7,710	16	123,360	昼食費	1,000	0	0
				バス費	57,240	1	57,240
				高速代	1,280	1	1,280
				保険料	200	20	0
				資材費	5,252	1	5,252
				雑費	4,000	1	4,000
合計			203,360	合計			198,842
				収支			4,518

残金の4,518円(@225.9円相当)は、福島48便有志の寄付とさせていただき今後の活動資金として活用させていただきます。

【 予算B : 個別予算(実績) 】

収入				支出			
項目	金額	個数	合計	項目	金額	個数	合計
往復同乗者	3,000	7	21,000	T車高速代	4,200	2	8,400
往路同乗者	2,000	2	4,000	T車ガソリン代	3,000	2	6,000
復路同乗者	2,000	1	2,000	T車提供代	600	1	600
運転手	2,500	3	7,500	N車高速代	4,200	2	8,400
				N車ガソリン代	3,000	2	6,000
				N車提供代	600	1	600
				W車	4,500	1	4,500
合計			34,500	合計			34,500
				収支			0

※いわきまでの自家用車同乗者の按分費用

以上